

事例

学校・行政・JAや生産者など、さまざまな団体との連携により 地産地消をすすめる「たべる、たいせつ」食育活動

いばらきコープ生活協同組合（茨城県）

いばらきコープ生活協同組合は、ビジョン2025「食卓を笑顔に、地域を豊かに、誰からも頼られる生協へ」を掲げて、豊かな地域作りに貢献する食育活動を進めている。この中で、食育サポーターチームをつくり、小学生や幼稚園児に向けた多彩な「たべる、たいせつ」食育活動、JAや生産者との連携による農業体験、行政機関との連携による「茨城をたべよう！」食育体験活動を実践している。

JAや生産者との連携による食育活動として、20年以上行っている田植え、案山子作り、稲刈りまでの一連の作業を生産者と交流しながら体験する「あぜ道交流会」やバケツ稲を育てる「おむすびレンジャー」等を通じて、食べ物への感謝の気持ちを育てている。

さらに、復興支援「福島子ども保養プロジェクト」では、福島県の子供たちとその家族を招待して、県特産品の「干しいも」づくりなどの食育体験活動を行っている。

「たべる、たいせつ」食育教室では、「楽しく食べる」「日本型食生活」「地産地消」の大切さを学んでおり、2014年度は29箇所ですべて3,195名が参加した（平成27年2月10日現在）。また、活動を支える食育サポーター育成のための資格制度や研修の仕組みは、全国の生協からも注目されている。「和食のすすめ」というプログラムでは、「出汁」をよく取ると味噌の量が少なくても美味しい味噌汁ができることを経験してもらうなど、和食の最大の知恵である「出汁」の素晴らしさとその栄養を伝えたり、「鍋でご飯を炊いておにぎりを作る」等を行っている。

このように、いばらきコープ生活協同組合では、子供たちとその親を対象にした多彩な取組を通じて、地域の食育の推進に貢献している。



【小学校の食育教室】



【あぜ道交流会の稲刈り】

【第2回 食と農林水産業の食育優良活動表彰農林水産大臣賞（企業部門）受賞】